

スクールタイム

①概要

- 8時30分から15時30分までの時間。
- 主体は学校側となり、標準時程に沿って教科学習を中心に実施する。
- コンセプトの中の「教科等に関連付けた体験活動プログラム」を実施する時間となる。

②ねらい

教科等に関連付けた体験活動プログラムを実施することで、体験的な教科学習を展開し、主体的・対話的で深い学びに近づける。

普段と違う環境で学習することで、より学習意欲を向上させ、学習効果を高める。

③運営上の役割

学校職員：児童指導、スケジュール作成・管理など

施設職員：体験活動プログラムの提案、指導補助、安全管理など

教育支援スタッフ：授業補助、児童把握など

④活動プログラム

- 沢歩きハイキング(理科:流れる水のはたらき)
 - 森の恵みの体験学習～紙すき体験～(社会科:私たちの生活と森林)
 - 俳句イング・ハイキング(国語:日常を十七文字で)
 - 自然物で造形遊び(図画工作:地球は大きなキャンバス)
- 上記4つのプログラムについては、p19～29に詳細を記載。

- 焼き板(図画工作)
- S D G s ラリー(総合)
- 野外炊事・調理実習(家庭科)
- 森の便り(国語)
- オリエンテーリング(総合・体育)
- 剣桂ハイキング(総合)

その他、国語や算数などの教室での学習や、総合的な学習や道徳と関連させて、セカンドスクールを振り返る活動も実施。



【共通に提案した教科等に関連付けた体験活動プログラム】

活動プログラム／沢歩きハイキング

◆5年 理科「流れる水のはたらき」

単元の目標

流れる水は、土地を侵食したり、石や土を運搬したり、堆積させたりする働きがあること。また、流れる水の速さや水量が変わると土地の様子が大きく変化し、ときに災害を引き起こす場合があること。災害に対する備えが重要であることを捉えるようにする。



◆学習過程と活動の流れ

課題の把握

学校での学習
【2時間】

- ・資料写真や生活経験から流れる水のはたらきや、川の上流・中流・下流の石の様子の違いについて話し合う。
- ・川と川原の石の様子の違いについてまとめる。

課題の探究

施設での学習
【4時間】

- ・実際に、源流や沢を観察し、流れる水には土地を侵食したり、石や土などを運搬したり、堆積させたりする働きがあることを調べ、記録する。
- ・記録したものを振り返りながら、実際の沢をモデル化して実験する方法を考えたり、今後調べてみたいことを話し合ったりする。

課題の解決

学校での学習
【6時間】

- ・観察したことや、話し合ったことをもとに、実験したり、さらに調べたりし、流れる水のはたらきについてまとめる。
- ・川の水による災害について考え、その備えについてまとめる。

◆育成する資質・能力

知識・技能

- ・流れる水には、侵食・運搬・堆積のはたらきがあることを理解することができる。
- ・沢や川の上流・中流・下流によって、河原の石の大きさや形に違いがあることを理解することができる。

思考力・判断力・表現力

- ・流れる水の働きを追究する中で、流れる水の働きと土地の変化の関係についての予想や仮説を基に、解決方法を発想し、表現することができる。

学びに向かう力

- ・流れる水の働きを追究する中で、専門家の話を聞いたり、仲間と意見を交流させたりして、課題を解決しようとしている。



国立那須甲子青少年自然の家

活動プログラム／森の恵みの体験学習 【エコシステムアカデミーと連携】

◆5年 社会「私たちの生活と森林」

単元の目標

森林資源の働きや、育成や保護の取り組みの様子を聞く心も持って調べ、森林が国土の保全や水循環などに重要な役割を果たしていることを理解する。森林の育成や保護に取り組む人々の工夫や努力を理解し、その様子から学習問題を見いだし、資料を活用したり、文章や作品にまとめたりすることで、思考力・判断力・表現力を養う。



◆学習過程と活動の流れ

課題把握

学校での学習
【4時間】

- ・日本の森林の様子を写真資料からつかむ。
- ・天然林と人工林の様子を確認する。
働きの違いについて考える。
- ・単元全体の学習問題を立てる。
- ・天然林の具体的な働きを調べる。(白神山地)
写真資料と身近な森林と比較する。
水資源・動植物・観光など
- ・林業について調べる。

課題追究

施設での学習
【2時間】

- ・森林資源の働きについて考える。
エコシステムアカデミーの話を聞く。
自分たちの考えと照らし合わせる。
- ・実際の利用について体験する。
紙すき体験

課題解決

学校での学習
【1時間】

- ・森林新聞にまとめる。
作ったはがきを使ってはがき新聞にもできる。

◆育成する資質・能力

知識・技能

- ・国土の保全や、水源の涵養のための森林資源の重要性や、国民一人ひとりの協力の必要性を理解している。

思考力・判断力・表現力

- ・森林資源の働きや、保護に向けた人々の取り組みを、資料をもとに調べていくことができる。

学びに向かう力

- ・森林資源の働きや、保護に向けた取り組みについて総合的に考えることができる。
- ・学習したことを通して、考えたことなどを新聞などの方法で適切に表現できる。
- ・森林資源の働きや、保護に向けた取り組みについて関心を持ち、今後の生活に活かそうとしている。



国立那須甲子青少年自然の家

第5学年 理科学習指導案

1. 単元名 小学5年「流れる水のはたらき」

○学習指導要領 理科 第5学年の内容とのかかわり

B 生命・地球

(3) 流れる水の働きと土地の変化

流れる水の働きと土地の変化について、水の速さや量に着目して、それらの条件を制御しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 流れる水には、土地を侵食したり、石や土などを運搬したり堆積させたりする働きがあること。

(イ) 川の上流と下流によって、川原の石の大きさや形に違いがあること。

(ウ) 雨の降り方によって、流れる水の速さや量は変わり、増水により土地の様子が大きく変化する場合があること。

イ 流れる水の働きについて追究する中で、流れる水の働きと土地の変化との関係についての予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現すること。

2. 単元の目標・評価規準

流れる水は、土地を侵食したり、石や土を運搬したり、堆積させたりする働きがあること。また、流れる水の速さや水量が変わると土地の様子が大きく変化し、ときに災害を引き起こす場合があること、災害に対する備えが重要であることを捉えるようにする。

育成する資質・能力	目標	評価規準
知識及び技能	流れる水のはたらきや、川の上流・中流・下流の様子の違いについて理解するとともに、観察や実験の結果について記録したり、活用したりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・流れる水には、土地を削ったり、石や土などを流したり積もらせたりする働きがあることを理解することができる。 ・川の上流、中流、下流によって、石の大きさや形に違いがあることを理解することができる。 ・安全で計画的に自然観察を行ったり、撮影記録したものを活用したりすることができる。
思考力・判断力 ・表現力等	流れる水のはたらきと、川の様子について、関係づけながら考えたり、見通しをもって観察・実験などをしたりし、自分の考えを表現することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・流れる水と土の関係について、条件に着目して実験の計画を考え、結果を考察し表現することができる。 ・自然観察を通して考察したもののもとに、モデル実験を行い検証し、問題解決することができる。
学びに向かう力 ・人間性等	流れる水のはたらきについて、研修指導員等のアドバイスを受けながら、仲間とともに自然に親しみ自然の雄大さを感じることができるようにし、感じたことを日常生活などに生かそうとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・川や土地の様子について、五感を使いながら自然観察を行おうとしている。 ・仲間とともに自然にふれあう観察活動を通して、実感しようとしている。 ・知識・技能を実際の自然事象や日常生活などに活用しようとしている。

3. 単元構想

(1) 集団宿泊活動として学習することのよさ

施設周辺にある、源流や高低差のある沢などに出かけ、川原の石の形や大きさには違いがあることを観察する。また、流れる水には土地を侵食したり、石や土を運搬したり、堆積させたりする働きがあることを、実際に触れたり、間近で観察したりすることで実感して理解することができる。さらに、観察することで、流れる水には時に災害を引き起こす場合があり、水量が変わると土地の様子が大きく変化することを理解することができる。

長期集団宿泊学習の時間割に沢歩き活動を取り入れることで、仲間とともに自然に親しみながら観察学習することで、協同的・共感的な態度を養うことができる。

さらに、地元の地理等に詳しい研修指導員が沢歩き自然観察に帯同し、ねらいに添った説明をすることで、児童が安全かつ実感的に学習することができる。

(2) 単元計画(学習過程と活動内容等)

学習過程	活動内容	時数	活動の場
自然事象に対する気付き	<p>◇ 第1次 川と川原の石</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川の流域による川や川原の石の様子の違いについて、資料を見て話し合う。 	2	学校

問題の見いだし	・川と川原の石の様子の違いについてまとめる。		
予想・仮説の設定	◇ 第2次 流れる水のはたらき ・上流と下流で沢と川原の石の様子が違うことに、流れる水が関係しているのではないかという見通しをもたせる。	4	自然の家 周辺の沢
観察の実施	・実際の沢で、流れる水の働きについて観察する。		
検証計画の立案	・実際の沢を観察して気づいたことをもとに、モデル化して実験する方法を考える。		
実験の実施	・流れる水の量や速さの変化を調べる工夫をし、モデル実験の装置を操作し、計画的に実験をすることができる。	2	
結果の整理	◇ 第3次 わたしたちのくらしと災害 ・川の水による自然災害や、災害への備えについて考える。	2	学校
考察や結論の導出	◇ 第4次 川の観察 ・学習のまとめとして、自分たちの暮らしの中での自分の行動について考える。	2	

(3) 「主体的・対話的で深い学び」の視点

1) 主体的な学び

①目指す子供の姿

流れる水のはたらきについて関心を持ち、実験や観察を意欲的に行うことができる。

実験や観察を通して考えたことを、積極的に伝えようとしている。

②指導のポイント

観察や実験のポイントを児童が考えられるような課題設定を行う。

安全に実験や観察を行うポイント（セーフティートーク）を的確に行う。

2) 対話的な学び

①目指す子供の姿

調べる観点を意識して実験を行い、結果や考察についてわかりやすく説明できる。

友達や研修指導員と積極的に質問したり、意見交換をしたりして、考えを伝え合っている。

②指導のポイント

観察・実験の結果から流れる水のはたらきについての、規則性等に気付かせる発問を行う。

説明のための話型を伝える。研修指導員とも話をしやすい関係を作る。

3) 深い学び

①目指す子供の姿

上流と下流の石を比較することで、流域ごとの川の様子に違いがあることに気づくことができる。

苔が付着した大きな岩が河原に転がっている様子や、河原が大きく侵食され木の根がむき出しになっている様子等を観察することを通して、川が変化した事象に疑問をもち、自然災害が発生する原因や災害を防ぐ工夫など、身近な生活学習のヒントとすることができます。

②指導のポイント

「水量」「水が流れる速さ」「侵食」「運搬」を関係付けて考えることができる活動を取り入れる。

観察カードやタブレット端末などで記録したものを使って、個人の学びの振り返り活動ができるよう促す。

4. 国立那須甲子青少年自然の家の展開例【理科 180分(時数4)】

(1) ねらい

・流れる水には土地を侵食したり、石や土などを運搬したり、堆積させたりする働きがあることがわかる。

(2) 展開例

活動	具体的な活動内容	指導上の留意点	時間
【導入】 めあてを確認し、セーフティートークを受ける。	1 本時の活動を確認する。 □ 流れる水は、どんなはたらきをするのか。 2 沢歩きハイキングについての諸注意を聞く。	・石や岩の様子・水の量や速さ ・流れる水の音・周囲の様子 ◎上記、観察ポイントを伝える。 ◎沢歩き中の安全確認をする。	10分
【展開①】 沢歩きハイキングを行い、自然観察を行う	3 観察場所まで歩き、指導者の説明を受ける。 4 観察カードに記録したり、動画撮影したりする。	◎体温、安全部面に配慮する。 ◎観察のポイントに沿って記録するよう促す。 ◎全児童が指導者の声が聞こえているか確認する。	160分
【まとめ】 気づきの共有をする	5 気づいたことを話し合う。	◎児童の気づきを次時につなげるまとめとする。	10分

第5学年 社会科学習指導案

1. 単元名 小学5年「私たちの生活と森林」

○学習指導要領 社会科 第5学年の内容とのかかわり

2. 内容

- (5) 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (イ) 森林は、その育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解すること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (イ) 森林資源の分布や働きなどに着目して、国土の環境を捉え、森林資源が果たす役割を考え、表現すること。

2. 単元の目標・評価規準

森林資源が私たちの生活や産業と密接な関係をもつてることや森林資源の働きとその育成や保全に従事する人びとの取り組みについて調べたり体験活動をしたりすることを通して、森林資源が国土保全や水源の涵養ために重要な働きをしていることを理解できるようにするとともに、森林資源を守るためにどうすればよいかを考える。

育成する資質・能力	目標	評価規準
知識及び技能	森林は、その育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解するとともに、地図や統計などの資料を通して、必要な情報を調べ、まとめる技能を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> 森林資源の働きとその保全に従事する人々の取組について理解することができる。 森林が国土の保全や人々の生活に果たす役割について理解することができる。 地図や資料などで、森林資源の働きと森林保全に従事する人々の取り組みについての必要な情報を集め、整理することができる。
思考力・判断力 ・表現力等	森林資源の分布や働きなどに着目して、国土の環境を捉え、森林資源が果たす役割を考え、表現する。	<ul style="list-style-type: none"> 森林資源の分布や働きなどに着目して、国土の環境を捉えたり、森林資源が果たす役割や現状について考えたりすることができる。 森林資源の保全に従事する人々の取組についての課題を捉え、解決に向けて考えたことを表現できる。 調べたことを整理してノートや新聞などにまとめることができる。
学びに向かう力 ・人間性等	我が国の中の森林環境について主体的に学習しようとする態度やこの学習を通して、国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考えたり、選択・判断したりできるような態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 森林資源の働きとその保全に従事している人の取り組みに関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。 森林の保全の重要性や国民一人ひとりの協力の大切さ、学習で得た情報をもとに、間伐材の活用など自分たちにもできることを考えようとしている。

3. 単元構想

(1) 集団宿泊活動として学習することのよさ

青少年教育施設を利用する最大のメリットは、施設の周りに森林環境があり、体験活動を学習課程の中に取り入れることができる。体験学習は実際の場面を体験し、児童の五感に訴えることができる。「もっと学びたい」「もっと調べたい」という関心の高まりは、そんな時に起こりやすい。

また、長期集団宿泊学習の時間割に歩き活動を取り入れることで、仲間とともに自然に親しみながら観察学習をすることで、協同的・共感的な態度を養うことができる。

さらに、地元の企業と連携した取り組みを行うことで、専門家がねらいに添った説明をすることで、児童が安全かつ実感的に学習することができる。

(2) 単元計画(学習過程と活動内容等)

学習過程	活動内容	時数	活動の場
課題の把握	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 日本の森林の様子を写真資料からつかむ。 ◇ 天然林と人工林の様子を確認する。 働きの違いについて考える。 単元全体の学習問題を立てる。 	4	学校

	◇ 天然林の具体的な働きを調べる。(白神山地) 写真資料と身近な森林と比較する。 水資源・動植物・観光など ◇ 林業について調べる。		
課題の追及	◇ 森林資源の働きについて考える。 エコシステムアカデミーの話を聞き, 自分たちの考えと照らし合わせる。	2	自然の家
	◇ 実際の利用について体験する。 紙すき体験。		
課題の解決	◇ 森林新聞にまとめる。 作ったはがきを使ってはがき新聞にもできる。	1	学校

(3) 「主体的・対話的で深い学び」の視点

1) 主体的な学び

①目指す子供の姿

我が国の森林環境についての課題を見つけ、生活体験、既習事項そして施設での体験活動をもとに課題を解決していくうとする姿や学習したことから自分たちでできることを考え、発信、実践していくうとする姿を目指す。

②指導のポイント

自分たちの実生活をもとに学習を展開することによって、森林環境に対する課題や、保全に携わる人々の努力について発見でき、「自分たちにできること」の学習につなげ、まさに自分たちの問題として意識させる。

2) 対話的な学び

①目指す子供の姿

課題について自分の考えを持ち、自分の考えと友達の考えを比較したり関連付けたりしながら考えを深めていく姿や、友達と協力しながらなど森林にかかわるいろいろな立場で多面的、多様的に考える姿を目指す。

②指導のポイント

資料を精選したり、学習課題を絞ったりなどして、学習の方向性を示しながら指導を進める。また、ペア学習、グループ学習、学級全体の学習を意図的に取り入れ、保全活動に携わっている人々の話を直に聞く場面を設定することで、話し合いを活性化させていく。

3) 深い学び

①目指す子供の姿

森林の利用という観点で体験活動を行い、保全活動の実際や森林保全に携わる人々の思いを体験的に理解し、より深い学びにつなげようとしている姿を目指す。また、保全活動にかかわる人々の工夫や努力をふまえ、さらには、実生活とのかかわりを考えつつ、具体的な課題解決につなげようとする姿を目指す。

②指導のポイント

学習過程の中に保全に携わる人々との交流や、体験活動を取り入れることによって実感を伴った学習ができる、保全活動に携わっている人々の思いに寄り添うことができるようになるさらに、具体的な課題解決策を考えたり、それらの内容を発信したりし、自分の学びの成果を実感できるようにする。

4. 国立那須甲子青少年自然の家の展開例【社会科 90分(時数2)】

(1) ねらい

・森林には、防風、防雪などの働きがあり、木材から紙などの製品ができ、私たちの生活を支えていることがわかる。

(2) 展開例

活動	具体的な活動内容	指導上の留意点	時間
【導入】 めあてを確認し、グループに分かれます。	1 本時の活動を確認する。 森林には、どのような働きがあり、森林資源はどのように利用されているのでしょうか。	◎展開①②はグループで交代して行う。	5分
【展開①】 森林のはたらきについての話を聞く。	2 森林のはたらきについて、スライドを観ながら説明を受ける。 3 紙のはたらきについて、針葉樹・広葉樹などの違いと用途について、実物を見ながら理解する。	◎児童の生活体験と関連させながら、説明する。 ◎身近な実物を示したり、クイズを出したりしながら、行う。	25分
【展開②】 森林資源の利用方法として、紙漉体験する。	4 紙漉体験をし、はがきを作る。 原料を流す⇒水を絞る⇒乾かす	◎重さをはかりながら、脱水していく。 ◎押し葉などを入れて飾ることもできる。	45
【まとめ】 気づきの共有をする	5 気づいたことを話し合う。	◎児童の気づきを次につなげるまとめとする。	15分



活動プログラム／俳句イング・ハイキング

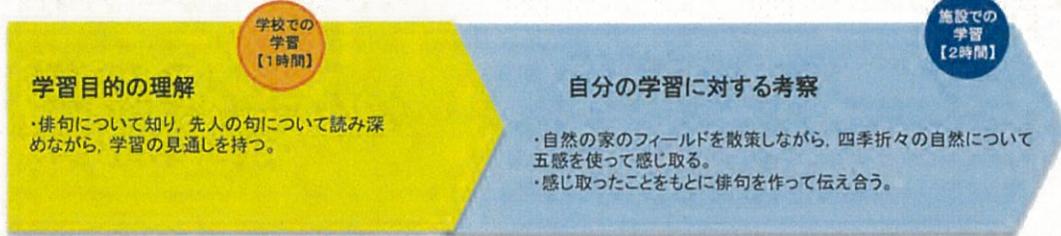
◆5年 国語「日常を十七音で」

単元の目標

秋を表す言葉や文章に心をもち、季節感を味わう。また、昔の人のものの見方や感じ方を参考に、自分が感じたことを俳句にして書き表す。



◆学習過程と活動の流れ



◆育成する資質・能力

知識・技能

・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。また、俳句に対する感想を伝え合い、自分の句のよいところを見つけることができる。

思考力・判断力・表現力

・俳句の構成や書き表し方などに着目して、俳句を整えることができる。また、俳句に対する感想を伝え合い、自分の句のよいところを見つけることができる。

学びに向かう力

・ハイキングの中で、積極的に語幹から、自然など周囲の様子を感じ取り、俳句作りに生かそうとしている。

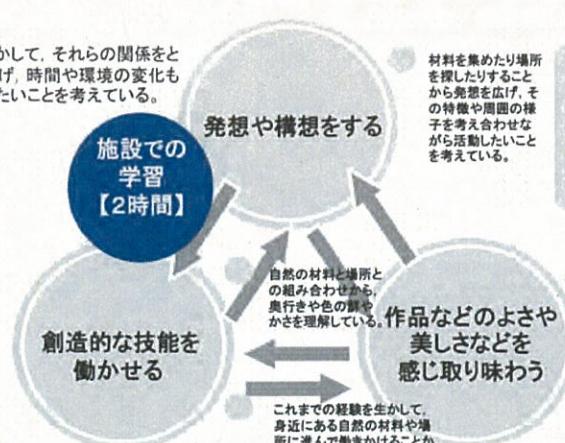


活動プログラム／落ち葉遊び

◆5年 図工「地球は大きなキャンバスだ」 ◆学習過程と活動の流れ

単元の目標

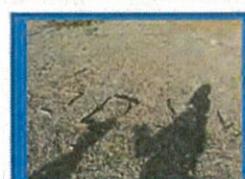
材料や場所、空間の特徴を生かして、それらの関係をとらえることから豊かに発想を広げ、時間や環境の変化も含めて積極的に自分が活動したいことを考えている。



自然物を見て、作つてみたい、描いてみたいものを伝え合う。

作ったもの、描いたものについて、工夫したことなどを伝え合う。

力を合わせてたのしく活動する喜びを味わい、身近な生活空間に働きかけようとしている。



◆育成する資質・能力

知識・技能

自然の材料と場所の組み合わせ方を工夫することができる。

思考力・判断力・表現力

材料や場所、空間の特徴を生かして、できることを考えることができる。

学びに向かう力

力を合わせてたのしく活動しようとしている。

第5学年 国語理科学習指導案

1. 単元名 小学5年「日常を十七音で」

○学習指導要領 国語 第5学年の内容とのかかわり

B 書くこと

(2) イ 短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。

2. 単元の目標・評価規準

秋を表す言葉や文章に关心をもち、季節感を味わう。また、昔の人のものの見方や感じ方を参考に、自分が感じたことを俳句にして書き表す。

育成する資質・能力	目標	評価規準
知識及び技能	語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。また、俳句に対する感想を伝え合い、自分の句のよいところを見つけることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。 比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。
思考力・判断力 ・表現力等	俳句の構成や書き表し方などに着目して、俳句を整えることができる。また、俳句に対する感想を伝え合い、自分の句のよいところを見つけることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 「書くこと」において、俳句の構成や書き表し方などに着目して、俳句を整えている。 「書くこと」において、俳句に対する感想を伝え合い、自分の句のよいところを見つけている。
学びに向かう力 ・人間性等	ハイキングの中で、積極的に語幹から、自然など周囲の様子を感じ取り、俳句作りに生かそうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> 粘り強く、構成や書き表し方に着目して、文言を整え、学習課題に沿って俳句を作ろうとしている。

3. 単元計画

学習過程	活動内容	時数	活動の場
学習目的の理解	・俳句について知り、先人の句について読み深めながら、学習の見通しを持つ。	1	学校
自分の学習に対する考察	・自然の家のフィールドを散策しながら、四季折々の自然について五感を使って感じ取る。 ・感じ取ったことをもとに俳句を作って伝え合う。	2	自然の家

4. 本時の展開例【国語 90分（時数2）】

(1) ねらい

・ハイキングを通して五感を使って自然を感じ、感じとったことをもとに自分なりの俳句を詠むことができる。

(2) 展開例

活動	具体的な活動内容	指導上の留意点	時間
【導入】 めあてを確認し、セーフティートークを受ける。	1 本時の活動を確認する。 ハイキングをして、感じたことを俳句に表そう。 2 ハイキングについての諸注意を聞く。	・俳句は五・七・五の分 ◎歩くコースを確認する。 ◎ハイキングの安全確認をする。	10分
【展開①】 自然散策・ハイキングを行う。	3 五感について確認する。 4 時折立ち止まって、観察する。	・視覚・聴覚・嗅覚・触覚・味覚 ただし、触覚・味覚については配慮が必要。 ◎体調、安全面に配慮する。	60分
【まとめ】 俳句作りをし、発表しあう。	5 俳句作りをする。 6 発表しあう。	・季語を確認する。 ・短冊などを準備する。	20分

*ハイキングコースによって展開の時間を調整することができる。

*周辺散策であれば20分程度で戻れるので、1時間（45分）で実施することも可能。

俳句イング・ハイキング指導者用資料

【準備物】

- ・短冊など
- ・ハイキングコース地図

【五感】



【進行など】

- ①俳句について確認する。
- ②ハイキングについてセーフティトークと五感について確認する。
- ③ハイキングを行う。
- ④一人一人が俳句を作る。
- ⑤発表しあう。



第5学年 図画工作学習指導案

1. 単元名 小学5年「地球は大きなキャンバスだ」

○学習指導要領 図画工作 第5学年の内容とのかかわり

A 表現

- (1) ア 造形遊びをする活動を通して、材料や場所、空間などの特徴を基に造形的な活動を思い付くことや、構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながら、どのように活動するかについて考えること。
- (2) ア 造形遊びをする活動を通して、活動に応じて材料や用具を活用することとともに、前学年までの材料や用具についての経験や技能を総合的に生かしたり、方法などを組み合わせたりするなどして、活動を工夫してつくること。

2. 単元の目標・評価規準

材料や場所、空間の特徴を生かして、それらの関係をとらえることから豊かに発想を広げ、時間や環境の変化も含めて積極的に自分が活動したいことを考えている。

育成する資質・能力	目標	評価規準
知識及び技能	自然の材料と場所の組み合わせ方を工夫することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の材料と場所との組み合わせから、奥行きや色の鮮やかさを理解している。 ・これまでの経験を生かして、身近にある自然の材料や場所に進んで働きかけることから、材料と場所の組み合わせを工夫している。
思考力・判断力 ・表現力等	材料や場所、空間の特徴を生かして、できることを考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・材料を集めたり場所を探したりすることから発想を広げ、その特徴や周囲の様子を考え合わせながら活動したいことを考えている。
学びに向かう力 ・人間性等	力を合わせてたのしく活動しようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・力を合わせてたのしく活動する喜びを味わい、身近な生活空間に働きかけようとしている。

3. 本時の展開例【図画工作 90分（時数2）】

(1) ねらい

・落ち葉など、落ちている自然物を集めたり、広げたりして、地面をキャンバスに見立てて発送豊かに、造形遊びを楽しむことができる。

(2) 展開例

活動	具体的な活動内容	指導上の留意点	時間
【導入】 めあてを確認し、セーフティトークを受け る。	<p>1 本時の活動を確認する。 大きなキャンバスに、自然物を使って描こう！</p> <p>2 自然を見渡し、活動場所を探す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎安全確認をする。 ◎活動範囲を確認する。 ・五感を使って楽しむよう促す。 	10分
【展開】 自然物を使って風景を 変えていく。	<p>3 自然物を並べたり、組み合わせたりしながら景色を 変えていく。</p> <p>4 友達のものを見比べたり、協力したりして、さらに 活動を広げていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動場面を写真に収めるなど、 記録していく。 ・児童にカメラを渡し、記録させ ることもできる。 	70分
【まとめ】 作品を発表しあう。	<p>5 作品を紹介しあう。</p> <p>6 感じたことを伝え合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感じ方を認め合えるような声か けをする。 ・原状復帰を原則とし、片づけを 徹底する。 	10分

*秋であれば落ち葉を使い、冬であれば雪を使って活動することができる。



地球は大きなキャンバスだ指導者用資料

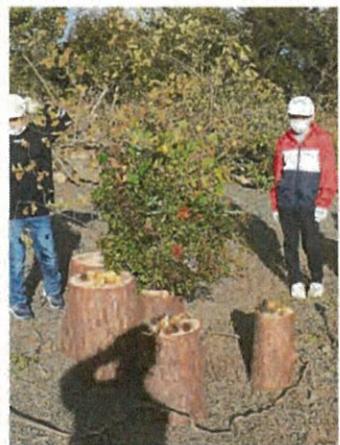
【準備物】

- ・カメラなど

【進行など】

- ①自然を感じる五感について知る。
- ②落ち葉や丸太などを使って、地面に描いたり、創作したりする活動を行う。
- ③作品を紹介しあう。

【作品例】



なすかしの森タイム

①概要

- 15時30分ごろから翌朝8時半ごろまでの時間。
- 宿題の時間を「なすかしの森タイム①」、夕食後の活動時間を「なすかしの森タイム②」とした。
- 主体は施設側となり、教育支援スタッフが中心になって、児童とともに過ごす。
- コンセプト中の「長期集団宿泊体験」にあたる時間となる。

②ねらい

保護者も学校の先生もいない夜の時間を、仲間とともに1週間程度の「長期集団宿泊体験」を行うことで、基本的な生活習慣や、コミュニケーション力などを身に付ける。
普段とは違う生活を送ることで、社会を生き抜く力を向上させる。

③運営上の役割

教 員：実施日までに生活指導を行い、当日は帰宅する。

施 設 職 員：教育支援スタッフの指導、準備片付け、安全管理など。

教育支援スタッフ：児童とともに、体験活動の企画運営など。



④活動プログラム

● ナイトハイク

夜のなすかしの森を安全に留意しながらハイキングをする。
視覚が遮られる中、ほかの五感を使って、自然を感じることができ
る。
仲間の存在を感じることにも効果的である。

● 星空観察

夜のなすかしの森は、晴れていれば、満天の星空がみられる。
星座を探したり、流れ星を見つけたりすることができる。
理科の学習につなげることも効果的である。

● プレイホールで遊ぼう

ボール遊び、鬼遊びなど、教育支援スタッフと一緒に思いっきり遊ぶことができる。
ルールを自分たちで話し合ったり、チームで取り組んだりと創意工夫が可能。
仲間意識を向上させることにも効果的である。

● 火おこし体験

たき火台を使って、火おこしを体験する。
夜に行することで、より一層火の暖かさや
明るさを実感できる。



● キャンプファイヤー・キャンドルファイヤー

多くの学校が最後の夜に実施。

火を囲み、火を見つめ、みんなで楽しいひと時を過ごす。

自分を見つめ、セカンドスクール全体を振り返ることで、振り返りの大切さに気付く。

グループごとの出し物や、振り返りの一人一言で気持ちを高めることができる。

初日に実施することで、セカンドスクールへの意欲を高めることもできる。

セカンドスクール初日から、教育支援スタッフと児童とで、シナリオの確認や役割分担など、準備を進める。

教育支援スタッフと児童が、一緒に作り上げたファイヤーの時間を最後の夜に共に楽しむことで、セカンドスクールでの自分や仲間の成長に気付くことができる。

教育支援スタッフにとっても、達成感とやりがいを感じるプログラムである。

「なすかしの森 キャンプ・キャンドルファイヤー」

国立那須甲子青少年自然の家
企画指導専門職

時間：1時間半程度

目的：宿泊学習最後の夜に、火を囲み、楽しい思い出を振り返り、仲間の存在を感じる。

展開

内容・時間	詳細	備考
1. 入場 0:00	・薄明かりの中を班ごとに順番に入場し、營火台を囲む。 ・BGMに合わせてハミングする。	BGM 遙き山に日は落ちて
2. 開始	第1部：カウンシル・ファイヤー ・皆さん静かに座りましょう。外では空の星がまるでこの時を迎えることを喜んでいるかのように輝いています。皆さんの仲間を見る目も、昨日であったとは思えないほど輝いています。○日間の思い出をしっかり刻むために、大いに楽しみましょう。』	
3. 火の神 0:05	・「火の神入場」 ・火の神の後ろに各班から選出した火の子がついて入場する。 ・火の神のトーチのみ火が付いている。	BGM 異人回廊
4. 点火	・「それでは火の神より言葉をいただきます。火の神お願いします。」「ありがとうございました。」「分火」 ・火の神が、火の子を順番に回りトーチに火をつけていく。 ・火の神のトーチが、火の子のトーチの下になるように。 * 「これは勇気の火」(勇気の火) * 「これは友情の火」(友情の火) * 「これは希望の火」(希望の火) * 「これは信頼の火」(信頼の火) * 「これは努力の火」(努力の火) ・「点火」	火の神の言葉 われは、火の神。聖なる火をつかさどる者。火は太古の昔から人類を孤独の闇から導き出し、ふれあう暖かさを与えた。そして文明の発展の力となった。今この火を皆に与えよう。
5. 歌 0:15	・「今火の神より聖なる火を授かりました。この炎が燃え続けるように【燃えろよ燃えろ】を歌いましょう。」 ・歌っている間に火の神が・火の子は退場する。	BGM 燃えろ燃えろ
6. ゲーム 0:20	第2部：ポン・ファイヤー ・もうじゅうがりに行こうよ ・2人組間違い探し ・グループ対抗フープリレー ・進化じゅんけん ・言うこと一緒、やること一緒 ・マイムマイム（ダンス）	人數分のフープ
7. 振り返り 1:00	第3部：カウンシル・ファイヤー ・「さあ、楽しかった時間もそろそろ終わりに近づいております。みんなを見守ってきたこの火を見つめてください。」「静かに目を閉じ、仲間との時間を思い浮かべてください。」(約1分) ・「代表の方に、この宿泊学習で感じた事、考えたこと、これから抱負や仲間への感謝をお話していただきます。」「最後に、もう一度目を閉じてください。」 ・朗読【あなたに】	BGM BEFORE LONG
8. 退場 1:20	・「それでは順番に静かに退場してください。」	BGM 風笛

▶ 「〇〇の火」の言葉と歌は、学級の実態に合わせる。また、もうときには一言あるとよい。

▶ 振り返りの代表者の言葉は、少人数ならば、一人一言に変えてよい。

